

問 協働のまちづくりの核となる施設の整備について、現在、鱒沢地区センターとしての行政上の位置づけはないが、地区センター的役割を果たしてきている老人憩いの家は老朽化し、駐車場も足りない状況にある。後期基本計画での整備方針は、

答 後期基本計画には盛り込んでいないが、鱒沢地区、特に沢田地区は高速道路関連工事により、道路改良整備も進み、インターの位置により地区の状況も大きく変わるものと思っている。そのような中で、鱒沢地区全体としての施設のあり方、そして地域の活性化に向けた新たな拠点施設の整備など、地域と十分相談しながら検討していきたい。



老朽化により、新たな拠点施設の整備が求められている老人憩いの家



公共施設の整備と活用策について

菊池 充 議員 (無会派)

問 子育て環境の充実のための施設整備について、鱒沢保育所・幼稚園の施設の一部である講堂は、築46年も経過しており、老朽化に伴って使用禁止となっている。後期基本計画での整備方針は、

答 講堂は修繕して利活用するには老朽化が著しい建物である。安全面や修繕費用を考慮すると、直すよりは解体撤去した方がメリットがあり、併せて跡地の土地利用を検討する必要がある。検討に当たっては、鱒沢保育所・幼稚園や隣接する旧シキポウナシス宮守工場施設、そして鱒沢就業改善センターや老人憩いの家などを含めた周辺地域の一体的な土地利用については、今後検討すべき課題のひとつと認識しており、地域の方々にも地域

にあった活用策を考えていただき、一緒に検討していきたい。

問 廃校となつていく情報ビジネス校の活用策について、全国で児童生徒数の減少で廃校が増加し、自治体ではさまざまな活用策に取り組んでいるが、市としてのこれまでの取り組みと今後の活用策は、

答 地域振興課が中心となり、若手市職員による検討会、宮守町の若者による市民検討会を開催し、中間報告をいただいた。この報告を受け、現在提案のあった分野ごとの担当部課において、活用の具体的な検討の集約を進めている。今後、検討結果を踏まえながら、各方面からより多くの情報も収集し、地域の活性化につながる最善の活用策を組み立てていく。